



**CREATE
LASTING
IMPACT**

Rotary



No. 9・No. 10 *the Rotary Club of
Takasago, Japan*

Olayinka Hakeem Babalola

オンラインカH. ババパラ

2026-27年度国際ロータリー会長

高砂

週 報

クラブ会長方針

"SHUSSEKISHITAI KURABU" 「出席したいクラブ」

- ◇高砂の核になる活動を考える
- ◇会員一人ひとりの話(考え)を聞く
- ◇新入or歴浅会員に大きな関心を寄せる
- ◇色んな学びを得て、楽しみましょう
- ◇時・力・金 < やりがい × 友情 × 知識を目指す

例 会 記 録 (2026. 9. 11 (金)) 通算3,466回

高砂青松RC・高砂RC 合同例会
於：ウェディングパレス鹿島殿

◆開 会

◆ロータリーソング「我等の生業」 「四つのテスト」

◆ゲスト紹介

NPO法人姫路コンベンションサポート 理事長 玉田 恵美 様

◆歓迎歌「松の緑」

◆プログラム予定

9月18日(金)	9月25日(金)	10月2日(金)	10月9日(金)
クラブアッセンブリー ガバナー公式訪問 矢坂 誠徳 様 (神戸西RC)	休 会 定款第7条第1節(d)による	会員卓話 佐野 敏晴会員	休 会 定款第7条第1節(d)による

◆S. A. A. (ニコニコ箱報告)

高砂青松 R C 坂口 嘉久会長……本日、合同例会です。両クラブのご発展を祈念して。

又、日頃の感謝をこめて。

高砂青松 R C 森本 匡裕幹事……本日はよろしくお願いします。

新井 哲三会員……玉田先生、ご講演ありがとうございます。

丸山 恵右会員……玉田さん、講演よろしく！

中野 哲郎会員……合同例会、お世話になります。

◆会長の時間

みなさん、こんにちは。

改めまして、高砂ロータリークラブで今年度会長をさせていただいている坂牛です。

本日は、この会の講師としてお越しにいただいている玉田先生のお話にも、もしかするとリンクするかもしれないと思い、「人が集まり、やりがいを持って活動し、定着する」といういわゆるホワイト企業化をテーマで話していきたいと思います。

現在は各業種、人手不足と言われ、また労働の考え方の変化によって、良きにつけ、悪きにつけ、ホワイト化をすすめておられる方は多いのではないのでしょうか。

僕は高砂市内で聖パウロこども園という保育園を運営しておりますが、例にもれず、保育士不足で困っています。ということで、私のところも、保育の質向上とともに、保育士の負担・ストレスを激減させてきました。

ところが、いくらホワイト化しても特に若い保育士の定着率はあまり変化せず、ずっと苦戦を強いられており、なんでだろうと感じていました。

そんな中、今年の2～3月に、パープル企業という言葉が耳に入りました。みなさん、ご存じでしょうか。

パープル企業の定義としては、諸説ありますが、概ね「ゆるブラック企業」と言われ、居心地はいいけれど、成長ができない（やりがいがない）企業をいいます。ストレス・苦勞をしないので成長を感じられない、同僚との繋がりをを感じられないのではないかと思いますようになりました。

また2～3月、そんなことを考えていたおり、私が会長になるために、研修や顔合わせの会合で、坂口さんと出会いました。そして、もちろん話題はロータリーの話をしていくわけですが、その中でAさんと組んで、ロータリー活動をしていた時の話を聞きました。もう、それはそれは大変だったと。でもその後の言葉がささりました。Aさんと一緒に本当によかった。勉強になった。その経験があって成長できた。と仰っていました。現に坂口さんは会長としてやりがいをもって、ロータリー活動をされています。それを聞いて、これが真のホワイトではないかと。やっぱりAさんはすごい人だなあと思って、今年の4月からAさん方式を少し取り入れて、運営しております。おかげで今年度は、保育士は1人も辞めていません。ありがとうございます。他方で産休に3人入りました。困りますが、喜ばしいことです。

ということで、ホワイト企業への道のりについてお話をさせていただきました。ご清聴ありがとうございました。玉田先生よろしくお願い致します。



会長の時間 坂牛 裕会長

◆本日のプログラム

ゲスト卓話

NPO法人姫路コンベンションサポート 理事長 玉田 恵美 様



【プロフィール】

NPO 法人姫路コンベンションサポート

理事長 玉田恵美 / 1969 年生まれ 赤穂市出身

2000 年ボランティア団体として発足。2002 年に法人化し、まちづくり、人づくりをミッションに活動中。

2007 年から 11 年に亘り実施した人情喜劇銀の馬車道は、地域住民で構成された劇団員と松竹新喜劇とともに銀の馬車道を周知する活動をし、「地域活性化の新しいスタイル」であることを評価され神戸新聞社会賞を受賞した（2008 年）。

2020 年からは、起業プラザひょうご姫路の運営を受託（兵庫県新産業課）。起業家育成とともに、スタートアップ企業と事業会社とのオープンイノベーション推進と、支援機関ネットワークの構築に努める。2025 年ははりまオープンファクトリー市播実施。

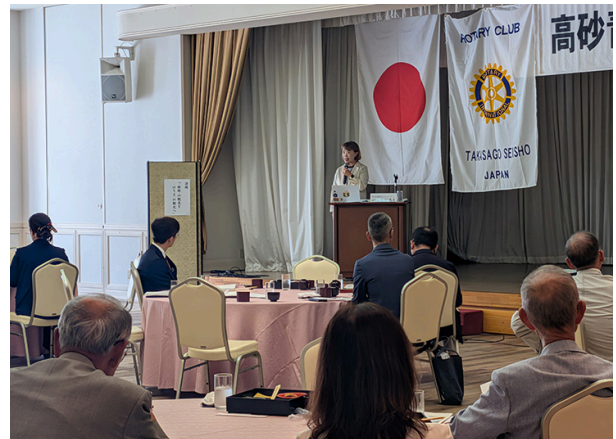
タイトル / “姫路”の観光を“はりま”の観光へ

世界文化遺産姫路城には年間 923 万人（平成 6 年度）もの観光客が訪れます。まだまだ課題も多く、観光客の平均滞在時間は 3.5 時間。

「通過型観光」と言われ、経済効果も薄いのが現状です。

もっと広い視野で考えると、播磨には歴史的なストーリーが各地にあり、時間を忘れて楽しめる場所があります。

今回の卓話では、NPO 法人の活動を通じて経験しているはりまの魅力を広くお伝えします。



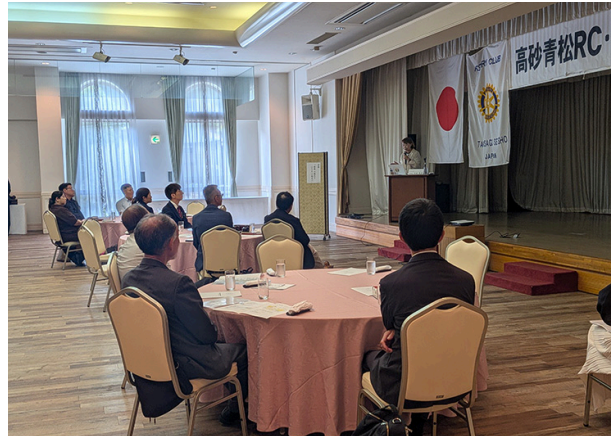
◆質疑応答



◆お礼贈呈



◆全体風景



◆高砂青松RC 坂口 嘉久会長 謝辞



例会 記 録 (2026. 9. 18 (金)) 通算3,467回

◆開 会

◆ロータリーソング「我等の生業」 「四つのテスト」

◆ゲスト紹介

国際ロータリー第2680地区ガバナー

矢坂 誠徳 様

東播第2グループガバナー補佐

前川 忠範 様

随行者 地区代表幹事 山根 章 様

松本 彩稔 様

矢野 宗司 様



国際ロータリー第2680地区ガバナー
矢坂 誠徳 様

◆歓迎歌「松の緑」

◆プログラム予定

9月25日(金)	10月2日(金)	10月9日(金)	10月16日(金)
休 会 定款第7条第1節(d)による	会員卓話 佐野 敏晴会員	休 会 定款第7条第1節(d)による	休 会 定款第7条第1節(d)による

◆S. A. A. (ニコニコ箱報告)

国際ロータリー第2680地区ガバナー 矢坂 誠徳様

東播第2グループガバナー補佐 前川 忠範様

随行者 松本 彩稔様……初めて高砂ロータリークラブ様の例会に参加させていただきます。よろしくお願いします。

随行者 矢野 宗司様……今日は前川ガバナー補佐の随行者でお伺いしました。よろしくお願いします。

坂牛 裕会長……矢坂ガバナー、本日はよろしくお願いいたします。

坂井 智代幹事……矢坂ガバナー、本日はよろしくお願いいたします。

谷川こずえ会員……ガバナー矢坂様、ガバナー補佐前川様、そしてパストガバナーの矢野様。本日はよろしくお願いいたします。

西田 州応会員……矢坂ガバナーよろしくお願いします。

池本 和正会員……矢坂ガバナー、よろしくお願いいたします。

新井 哲三会員……矢坂ガバナーをお迎えして。

岡 忠孝会員……矢坂ガバナー、本日はよろしくお願いいたします。
大溝 貴史会員……矢坂ガバナー、本日はよろしくお願いいたします。
庄司 治会員……矢坂ガバナー、本日はよろしくお願いいたします。
佐野 敏晴会員……矢坂ガバナー、本日はよろしくお願いいたします。
中野 哲郎会員……矢坂ガバナー、本日はよろしくお願いいたします。
丸山 恵右会員……矢坂ガバナー、ようこそ！
山名 克典会員……矢坂ガバナー、本日はよろしくお願いいたします。

◆幹事報告

〈例会変更のお知らせ〉

○加古川中央RCより、例会変更のお知らせ

（10月8日、10月22日、10月29日、11月26日分）

・その他

- ①ハイライトよねやまVol. 318が届いています。
- ②第24回ロータリー全国囲碁大会の案内が届いています（11月21日 東京）。
- ③RIバルセロナ2027国際大会の案内が届いています（6月26日～30日）。

◆会長の時間

皆さん、改めましてこんにちは。

本日は矢坂ガバナーにお越しいただいておりまして、高砂ロータリークラブとして、いいところを見せるため、月間テーマである「識字率の向上」に関連して、いつも通り格調高く「日本語」について考察したいと思います。

日本語というと、世界でも読み書きの習得が難しい言語だとよく耳にします。確かに日本語には、ひらがな、カタカナ、そして漢字があり、英語のアルファベット26文字と比較すると、一目、日本語のほうが大変そうです。

しかも、皆様お仕事で、タイピングを多くされていると思うのですが、「半角英数の切り替え」や「変換」がつきまとして、英語と比較すると、結構面倒なのではないかと思っています。

ところが、「識字」、つまり文字を読んで意味を理解するという観点から考えると、ちょっと違った見え方になります。日本語のひらがなは、文字と音の対応が非常に規則的です。基本的な文字と規則を覚えれば、「ひらがな文字」を見て音にすることは比較的容易です。音にして、普段使用している「言葉」と一致すれば、「意味」につなげることができます。（英語はフォニックス（phonics）という文字と音の一定の対応関係があるが・・・）英語はアルファベット言語の中でも、文字と音の対応がかなり不規則な言語で、僕は学生時代に非常に苦勞しました。



会長の時間 坂牛 裕会長

そして、僕が日本語に対して思っているのは、段階的に「成長できる」という特徴がある点です。まず、ひらがなを覚える。すると、とりあえず文章を音にすることができる。次にカタカナを覚える。そして小学校から少しずつ漢字を覚えていく。つまり一度にすべてを覚える必要はなく、段階的に識字能力を高めていくことができます。しかも、習得すればするほどに、視覚的に文章と意味を捉えやすくなっていき、識字能力をどんどん伸ばしていくことができる。これは、結構すごいのではないかと思います。

こう考えていくと、「識字」という言葉も、単に文字を声に出して読めるかどうかだけではないように思います。文字を音にできる。その音から意味が分かる。さらに文章全体の意味を理解し、そこから必要な情報を取り出し、自分の生活に生かす。そこまで含めて初めて、本当の意味での「読み書きする力」なのかもしれません。

ということで、今回は「識字」からの「日本語の特徴」について、考察してみました。
以上でございます。

◆本日のプログラム

ゲスト卓話

国際ロータリー第2680地区ガバナー 矢坂 誠徳 様





会 長：坂牛 裕	幹 事：坂井 智代	雑誌会報委員長：大溝 貴史
例会日時 毎週金曜日 12 時 30 分より	例会場 高砂商工会議所会議室はじめ高砂市内各所 他	
高砂ロータリークラブのホームページのURL		http://takasagorc.starfree.jp/